

予算審査特別委員会の報告

高麗体育館跡地の整備などを予算化

付託された平成31年度予算を分科会方式で審査し、2月15日の全体会で15議案すべてを賛成多数で可とすべきと決しました。

主な新規事業では、こうれい上屋付多目的広場整備、4小学校の児童用パソコン更新、通学路など安心・安全な道づくり外灯設置、起業支援補助金、名和公民館空調設備更新、農業水路長寿命化・防

災減災などの事業である。

事務事業では、防災対策で防災監の設置や民生委員協力員制度の創設などである。

主な継続事業では、デマンドバス3台を更新し「貨客混載」の社会実験や、大山開山1300年祭後の大山山麓観光推進協負担金、30歳代女性対象の乳腺エコー検診の一部助成、放課後児童クラブの時間延長、老人クラブ活動助成

の要件緩和などである。

国民健康保険特別会計予算では、平成31年度から、保険税算定における資産割廃止に伴う保険税激変緩和のため、基金1000万円を取り崩す予算となっている。

水道事業会計予算では、名和第3配水池新水源調査や、断水が発生する庄内水道排水管布設替え工事などである。

特別委員会では、可決にあたり次の2項目の付帯意見を付けています。

付帯意見

(1) 所管を明確に

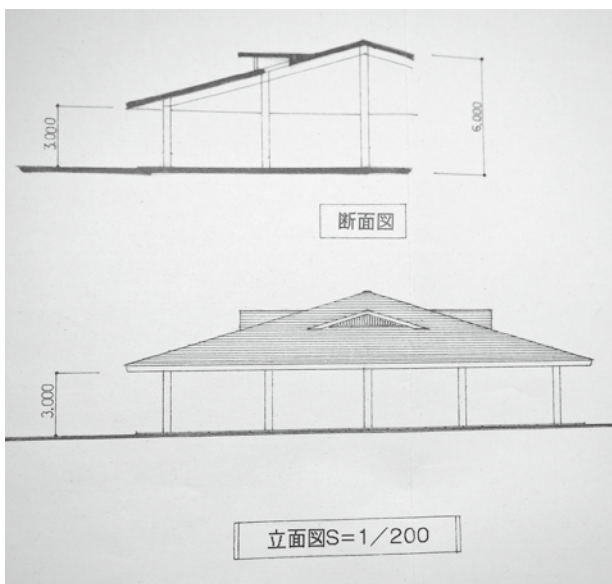
平成31年度予算では、担当課が曖昧で審査に支障をきたす場面も見受けられた。

特に、こうれい上屋付多目的広場整備事業では、社会教育課、企画課、財務課と担当課が段階に応じ変わったことで、どの分科会で審査すべきなのか困惑した。

施設や事業の目的に沿って担当課は固定し、責任の所在は明確にされたい。

(2) 大山診療所

長年の課題であった固定医が確保された。着任の周知をしっかりと行い、地域住民のみならず多くの住民が利用できる診療所としていただきたい。あわせて、経営改善にも取り組まれたい。



こうれい上屋付施設 健康づくりやふれあいの場に



街灯設置で通学路が安全に

町長の施政方針

平成31年度も国からの交付税が1億5千万円減額となる状況だが、行財政改革を積極的に進めることで、安定的な財政運営に取り組んでいく。

人口減少対策を前に進め、誰もが地域に誇りを持って住み続けられるまちづくりを、引き続き取り組んでいく。

主な政策と取り組み

1. 住みやすいまちづくり

防災対策として防災監を配置し、防災体制の強化、地域自主組織の育成など住民の防災意識の向上をはかる。通学路を中心に外灯

の増設を行い、通行する人達が安心・安全に利用できるようにする。

「民生委員協力員制度」を創設し、民生委員の活動の継続・充実をはかり負担軽減につなげ、地域福祉の向上をめざす。

2. 健康づくり

大山診療所に常勤医師の確保と、鳥取大学と連携した家庭医療教育ステーションの設置により、医学生養成を支援するとともに充実した医療をめざす。

30歳代女性を対象とした乳腺エコー検診の一部助成を新規に実施し、若年層の乳がん対策に取り組む。

3. 子育て支援

産後検診を無料で実施し、産後初期の母子支援を強化する。

ペアレントサポートプログラムを就学前までの保護者に実施し、子育て期における切れ目のない支援を行う。

放課後児童クラブの開設時間を延長し、保護者の就労を支援するとともに児童の健全育成をはかる。

4. 教育環境の充実

耐用年数が過ぎている町内4小学校のパソコンの更新を行い、ICT教育の環境を整える。

5. 産業振興

農林水産業の後継者や新規就業者を増やしていく取り組みを引き続き展開していく。平

成31年度新たに、がんばる漁業者支援事業、農業水路長寿命化・防災減災事業に取り組み、農業・水産業など所得向上のため各事業を推進していく。

大山開山1300年 課内に移す。

祭が一過性にならないよう、観光の発展に取り組む。

町内に数多く存在する貴重な文化財を有効活用するために、文化財室を町長部局の観光



観光課に移った文化財室